



「オススメ」
**教員から
 学生への
 推薦図書**
 Recommend
 books

学生みなさんに読んでほしい一冊を、大学の蔵書の中から紹介していただきました。学生時代に会った本や、息抜きに読める本などさまざま。ぜひ図書館で探してみてくださいはいかがでしょうか。

01

**集団的自衛権と
 安全保障**



豊下 栞彦、古関 彰一 (著)
 (岩波書店) 2014

名図文庫 080:1952:d1491
 豊図文庫 319.8:To92

2015年夏、集団的自衛権を容認する膨大な軍事法案のため国会内外が熱かった。憲法学者の圧倒的多数や多数の弁護士が「違憲」として反対を表明。一方専門家ではない若者・主婦等の一般市民も、多数国会を埋め尽くし全国各地でデモ・集会を催した。法案が形式的には通った今、あらためて「集団的自衛権」とは何かを冷静に知っておきたい。著者の豊下はこの問題の第一人者たる国際政治学者、古関は憲法制定過程や安全保障に詳しい憲法学者である。分野の異なる二人が執筆した本書には、改憲問題も含め、現在問題となっているほとんどの論点が論じられている。安倍首相が集団的自衛権必要と説く理由を、豊下は現実的・専門的な見地から「人を欺くトリックそのもの」(Pii)と批判する。18歳選挙権が成立した今、大学生はもはや観客ではない。この国の行く末に対し意思を表明すべき責任を有する「主権者」なのである。

名古屋校舎

長峯 信彦
 法学部

02

天才の心理学



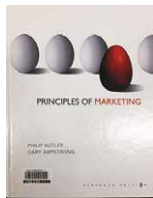
E.クレッチュマー (著)
 (岩波文庫) 1982

名図文庫 141.18:Kr4

E.クレッチュマー『天才の心理学』(岩波文庫1982年)は、「天才と狂気」という通俗的話題から説き起こし、天才性と精神障害との関係について論じる際、人間の性格を根源的に規定する要因として、分裂気質・癲癇気質・躁鬱気質を析出し、普通の人間は以上の三類型の中間のいずれかに分布するとみなしている。同書が明らかにした意外な事実は、人間の正常な気質を直接定義することはできず、異常気質からのずれとしてしか認識できないという洞察である。すなわち、精神分裂病・癲癇病・躁鬱病に分類されるような異常気質こそが人間の気質をもっとも典型的に表現しており、天才の創造性も気質の偏りと密接な相関関係にあると解釈されている。

03

Principles of Marketing



Kotler and Armstrong (著)
 (Prentice-Hall)

(外)名図書庫 ほか

みなさん教科書というどのようなイメージをお持ちですか？文字が多く、真面目に淡々と書かれていて、初心者興味を引くようなものではなく、つまらないというイメージを持つ方が多いのではないのでしょうか？今回紹介するのは世界でトップクラスに売れているマーケティングの教科書です。約600ページの大著ですが、大きなカラー写真と、ポップな図表が多く載っており、日本の教科書とは全く違う印象を持つと思います。もちろん最新のものも含め今日までのマーケティング研究の知見が網羅されています。そして世界中の読者を対象にしているため英語は平易です。是非一度手にとって(かなり重いかから手首に注意！)読んでみてください。あなたの教科書の概念が変わるはずですよ。

04

哲学入門



バートランド ラッセル (著)
 中村 秀吉訳
 (社会思想社) 1996

名図開架 133.5:R89

「哲学入門」というタイトルの書籍は多い。哲学は入門書が必要なほど入りにくい分野であるかもしれない。私は高校生の頃この本に出会って「哲学」への関心を抱くに至った。冒頭に机の話が出てくる。現に見えている机は、実はないかもしれないというのである。高校生くらいまでは、常識を身につける時代であろう。机が実はないかもしれないということになれば、信じていた世の中の全ての根拠が失われて、精神的に無根拠の宙ぶらりんな状況になってしまうのだが、これが私には愉悅であった。こういう楽しみのためには、本来D.ヒュームの著作でも挙げるべきであろうが、入門書として本書は好適であるように思う。

名古屋校舎

森 久男
 経済学部



名古屋校舎

太田 幸治
 経営学部



名古屋校舎

木島 史雄
 現代中国学部